令和8年11月5日

京 都 経 済 情 勢 報 告

（令和8年10月判断）

1．総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、回復しつつある」

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	**回復しつつある**	↗

（注）8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、回復しつつある。生産活動は、緩やかに回復している。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
個人消費	回復しつつある	**回復しつつある**	→
生産活動	持ち直している	**緩やかに回復している**	↗
雇用情勢	緩やかに持ち直している	**緩やかに持ち直している**	→
観光	回復している	**回復している**	→
設備投資	8年度は前年度を上回る見込みとなっている	**8年度は前年度を上回る見込みとなっている**	→
企業収益	8年度は減益見込みとなっている	**8年度は増益見込みとなっている**	↗

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

２．各論

【主な項目】

■ 個 人 消 費　「回復しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回っている。百貨店販売額は、為替の影響もありインバウンド需要が好調であるほか、国内売上げが伸長していることなどから、前年を上回っている。スーパー販売額は、物価高や高付加価値商品の売上げ増加による客単価の上昇などから、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、酷暑や天候不順により来店客数が減少したことなどから、前年を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、一部の自動車メーカーにおける生産、販売が回復基調にあることなどから、前年を上回っている。

家電販売額は、物価高による値上げに伴う客単価の上昇のほか、一部の商品で特需がみられたことなどから、前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、物価高による販売価格の上昇や、高額商品が好調であったことに伴う客単価の上昇などから、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、天候不順による来店客数の減少や、消費者の節約志向に伴う買い控えなどから、前年を下回っている。

これらのことから、個人消費は回復しつつある。

- ➢ 催事による集客強化などの企業努力が奏功し、国内客向けの店頭売上げが増加した。引き続き外商販売が好調なことに加え、為替の影響もあり免税売上げが増収となったことなどから、売上高全体でも前年を上回った。（百貨店）
- ➢ 日用品などでは支出を抑える一方、品質や価値に納得できる商品には支出を惜しまない傾向がみられる。（スーパー）
- ➢ 7-8 月は酷暑、9 月は降雨による外出控えで来店客数が減っている。定番商品や日配品は伸びない一方、IP（知的財産）コンテンツ商品には強い引き合いがある。（コンビニエンスストア）
- ➢ 一時期落ち込んでいた生産、販売が回復基調にあることから、新車登録台数は前年同期を上回った。（自動車販売）
- ➢ 値上げにより客単価が上昇しているほか、夏物家電の販売台数も前年を上回っており、好調に推移している。特にエアコンは、市の補助金等を背景とした買換え需要の高まりを受け、販売が好調であった。（家電量販店）
- ➢ 物価高の影響で販売価格が上昇していることに加え、高単価の理美容品がインバウンド客向けに好調であることなどから、客単価は上昇している。（ドラッグストア）
- ➢ 消費者の節約志向から、ついで買いはせず必要なものだけ買う傾向が強まっており、買上げ点数は減少している。（ホームセンター）

■ 生 産 活 動　「緩やかに回復している」

鉱工業生産指数でみると、輸送機械などが下降しているものの、電気機械、生産用機械などが上昇している。また、企業からは、AI 関連の設備投資需要の増加を背景に、半導体関連製品の需要が引き続き高水準で推移しているとの声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は緩やかに回復している。

- ➢ 主に中国での半導体国産化に向けた AI 関連の設備投資需要の増加を背景に、半導体製造装置関連が前期に続き堅調に推移している。（電気機械）
- ➢ AI 関連の半導体市況が好調であることを受け、台湾や中国を中心として半導体工場向けの関連装置の売上げが堅調であるほか、国内企業の省力化・自動化の流れを受け、受注は増加している。（生産用機械）
- ➢ 生産実績は前年同期を下回っているが、前年の同時期に新型車を発売し、需要が急増していたことによる反動減であり、平年と比べると低い水準ではない。（輸送機械）

■ 雇用情勢　「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、概ね横ばいで推移していることなどから、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- ➢ 製造業では、市況が好調なAI・半導体関連産業で求人需要が旺盛となっている。一方で、非製造業の一部においては、仕入コストの上昇に価格転嫁が追いついていないことや消費者の節約志向によって業績が低迷し、新規求人数が減少している。（官公庁）
- ➢ 管理部門では、ERP（会計、人事、生産、販売などの基幹業務を一元管理するシステム）の活用により業務効率の向上を図り、創出した人的リソースを生産現場へ再配置することによって生産能力の強化を進めている。（電気機械）
- ➢ 人手不足が顕著なフロント部門で外国人スタッフを多く採用している。（宿泊）
- ➢ 宅建士や施工管理技士などの資格保持者や営業、設計部門で深刻な人手不足となっている。社内の資格保持者を増やすため、eラーニングや合格者への祝い金といった福利厚生を充実させている。（建設）

■ 観　　光　「回復している」

外国人利用割合が前年を下回って推移しているものの、平均客室単価および客室稼働率が概ね前年並みを維持していることから、観光は回復している。

- ➢ 中国人宿泊客は前年比約7割減となるなど大幅に減少している。韓国、台湾、インドネシア、インドからの宿泊客は増加傾向にあり、中国人客の減少分を一部補完しているものの、完全にカバーできていない状況。（宿泊）
- ➢ 客室稼働率は前年同期比で上昇している一方で、平均客室単価は同業他社との価格競争が激しく前年同期比で微減しており、収益としては前年同期比で横ばい。（宿泊）
- ➢ 7月に大規模な会議があったため、レストランおよび宴会部門の売上げは大きく伸びている。大型のビジネスイベント案件を獲得できると複数の宴会場が使われ、宿泊やレストランなど館内施設の利用にもつながるため、インパクトが大きい。（宿泊）

■ 設備投資　「8年度は前年度を上回る見込みとなっている」 **（全産業）「法人企業景気予測調査」8年7~9月期**

製造業では、繊維などが前年度を下回っているものの、情報通信機械、生産用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

非製造業では、金融・保険などが前年度を下回っているものの、宿泊・飲食サービス、不動産などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益　「8年度は増益見込みとなっている」 **（全産業）「法人企業景気予測調査」8年7~9月期**

製造業では、業務用機械などが減益となるものの、情報通信機械、非鉄金属などが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

非製造業では、不動産などが減益となるものの、医療・教育、宿泊・飲食サービスなどが増益となることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設　**新設住宅着工戸数**（後方3か月平均）でみると、前年を下回っている。

■ 公共事業　**前払金保証請負金額累計**でみると、前年を下回っている。

■ 企業倒産　**倒産件数**は、前年を下回っている。

■ 企業の景況感　**法人企業景気予測調査（8年7~9月期調査）**の景況判断ＢＳＩでみると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業は「上昇」超、中堅企業、中小企業は「下降」超となっている。先行きについて全産業でみると、10~12月期は「上昇」超の見通しとなっている。

連絡・問合せ先　京都財務事務所財務課 TEL075-752-1418